



三重県立看護大学  
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



# MCN REPORT

2026.3 vol. **64**



## 共同研究で挑む、臨床現場の課題解決

### contents

連携協力協定機関との共同研究 .....	1
大学院における国際交流 .....	3
研究室訪問 .....	4
みかんだいの1年 .....	5
連携協力協定機関紹介 .....	6



# 連携協力協定機関との共同研究

## 臨床現場の課題に向き合い、 地域の保健・医療・福祉の向上へ

本学は、実践力に優れた質の高い看護職者の教育・育成や、地域に根差した大学としての社会貢献を目的に、三重県内の14病院・2市と連携協力に関する協定を締結しています。

これまで、本学教員による連携協力協定機関での研修支援や、学生の臨地実習の受け入れなどを通して、連携協力協定機関の皆さまとともに人材育成や地域医療の充実に取り組んできました。

令和7年度からは新たな取り組みとして、本学と連携協力協定機関との共同研究を開始しました。

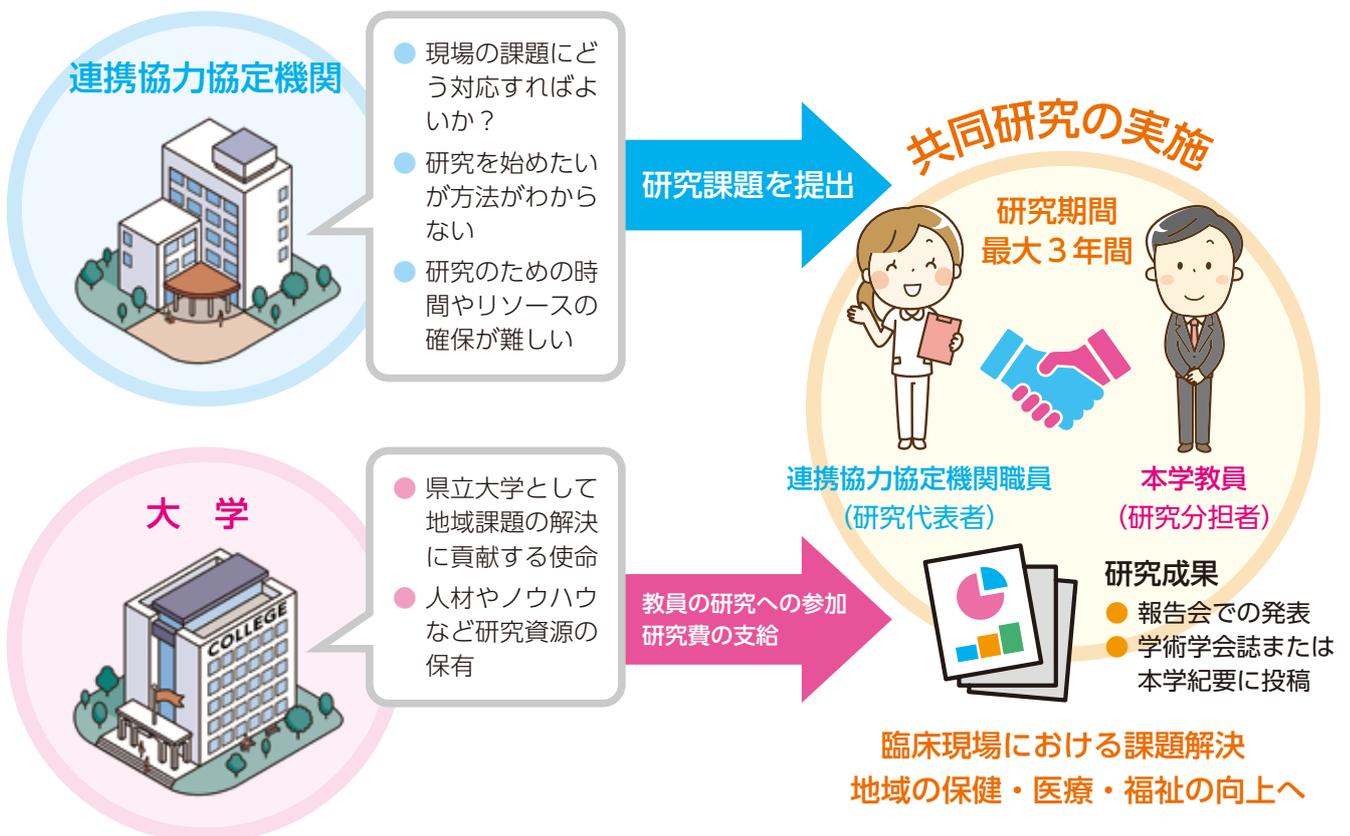
### 共同研究について

#### ● 趣旨

臨床現場では、高度化する医療や看護業務など、日々さまざまな課題に直面しています。そうした課題に対して、連携協力協定機関の職員の方と本学教員がそれぞれの強みを活かしながら共に研究に取り組むことで、臨床現場における課題の解決をめざし、さらには三重県の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的としています。

#### ● 実施方法

連携協力協定機関の職員と本学の教員が、最大3年間を研究期間として共同で研究を進めます。得られた研究成果は、研究期間終了後に開催される報告会で発表するほか、学会誌または本学紀要に投稿し、社会に還元します。





## Interview

## 地域貢献担当理事兼地域交流センター長 宮崎 つた子 教授

### 共同研究は、これまで本学の地域交流センターが中心となり実施してきた看護研究支援とはどのような違いがあるのでしょうか？

これまで地域交流センターでは、看護研究に関する研修の開催や、医療機関等への講師派遣など、さまざまな看護研究支援の取り組みを行ってきました。これらの事業は、医療機関等における看護研究の促進を大学が後押しすることを目的にしていますが、共同研究は、連携協力協定機関と大学が、ともに臨床現場の課題解決のために研究に取り組もうという試みです。本学が提供するプログラムに沿った一方通行のサポートという関係性ではなく、双方がそれぞれの専門性を発揮しながら、研究計画の立案から研究成果の発表までの一連の研究プロセスを共同で実施するところに特徴があります。

### 共同研究の実施について、連携協力協定機関の皆さまからはどのような反応がありましたか？

11月6日(木)、連携協力協定機関の病院長や看護部長等の皆さまとの意見交換会を開催しました。それぞれの機関において看護研究の必要性は感じる一方、具体的な支援策に悩んでいるという実情があり、「今回の共同研究が、看護部の研究への動機づけになれば」という期待の声をいただきました。

本学の地域交流センターには、共同研究のための相談窓口を設けており、研究テーマや、ともに研究する本学教員とのマッチング等、申請にあたってのさまざまなご相談に対応しています。共同研究に対する疑問や不安を解消し、ぜひ、連携協力協定機関の皆さまと新たな研究を生み出していただければと考えています。

### 共同研究を進める中で、どんな効果が生まれると期待しますか？

共同研究を通して、看護実践者である連携協力協定機関の方と研究者である本学教員、異なる専門性を持つ双方が、互いの視点で学び合える関係を築けると考えています。また、地域貢献を使命とする県立大学としては、研究成果を臨床現場へ直接還元できる重要な機会です。

連携協力協定機関との意見交換会では、この共同研究をきっかけに、今後は医療機関同士が垣根を越えて連携し、研究の輪がより一層広がっていくことへの期待も寄せられました。今回の取り組みが、地域の保健・医療・福祉の向上に向けた新たな協働の一步となることを願っています。



宮崎 つた子 教授



連携協力協定機関との意見交換会



連携協力協定機関の皆さまと

令和7年度は2件が採択され、共同研究が始まっています。

- 三重県立総合医療センターと看護管理学教員・地域特任教員のチーム
- 済生会松阪総合病院と老年看護学教員のチーム

皆さまに研究の成果をご報告できる日を心待ちにしています。





# 大学院における国際交流

## 大学院生の交流から広がる、国境を越えた学びの輪

本学では、平成13年にタイ王国マヒドン大学と国際交流協定を締結し、学生の相互派遣をはじめとした国際交流事業を行っています。

これまで学部学生の交流が主でしたが、令和7年度はマヒドン大学の大学院修士課程の学生7名の短期研修を受け入れ、大学院生同士の交流が実現しました。

### 短期研修プログラム

今回の短期研修は、10月7日から9日までの3日間にわたり実施されました。本研修に参加したのは、マヒドン大学の修士課程で成人・老年看護学を専攻する学生です。本学教員による講義で日本の医療制度や成人・老年分野における看護について学んだほか、県内の2施設にご協力いただき、緩和ケアやリハビリテーション、デイケアを実施している病院や、特別養護老人ホームの見学を通して、日本の医療・福祉の現場への理解を深めました。



### 本学学生との交流

研修期間中には、本学大学院生との交流の場を設け、互いの研究内容を発表し、意見交換を行いました。マヒドン大学修士学生からは「互いの研究内容を共有できてよかった。将来的に両大学の研究ネットワークを強化できるようになればよい」との感想が聞かれました。

また、国際交流サークル主催の歓迎会・文化交流会も実施され、食事やレクリエーション等を通じて、互いの文化を知る良い機会となりました。

### 交流を振り返って

#### 大学院修士課程 2年生 竹之内 彩子 さん

マヒドン大学の修士課程の学生との交流は、とても楽しく学びの多い時間でした。

英語でのプレゼンテーションは、タイの大学での研究の特徴など、日常ではなかなか知る機会のない話を聞ける大変貴重な経験でした。

同じ修士課程に在籍する学生同士ということもあり、自分自身への刺激となり、国際交流の楽しさを改めて実感しました。



#### 大学院修士課程 2年生 片岡 祐樹 さん

10月の交流会では、お互いの研究を紹介し合いました。英語で研究内容を伝える難しさを感じる一方、学び合う楽しさも再認識しました。マヒドン大学の大学院生は、複数名のチームで一つの研究に取り組んでいることや、入院患者を対象に調査を行うなど、臨床に根差した研究であることが印象的でした。今回の学びを、今後の研究や教育に活かしたいです。





## 被災しても住み慣れた地域や自宅で 安心・安全な生活をするための支援を

### 在宅看護学

日比野 直子 准教授

私は、訪問看護サービスを利用する療養者様が、災害で被災しても住み慣れた地域や自宅で暮らしを継続していくために、訪問看護ステーションが地域でどうあるべきかについて考える研究をしています。

県内では伊勢志摩沿岸や東紀州沿岸を中心に南海トラフ地震の被害予測もされています。そのため、訪問看護ステーションの連携や協働を実現する具体的な体制や方法について、伊勢志摩地域の訪問看護ステーションの管理者の方々と研究を進めています。

また、県看護協会が養成している災害支援ナースの活動についての研究を並行しています。災害支援ナースは、令和6年の法改正によりボランティアではなく県知事の派遣要請で被災地に派遣されるようになりました。能登半島地震などの甚大被害は、被災生活を長期化させています。環境変化を伴う被災生活の支援に



は、生活者の視点も必要となります。その場合、被災者の方々の話を傾聴し、気持ちやニーズを捉えることを重視したケアを提供できる訪問看護師が最も適切な支援者であると思います。災害支援ナースなど被災地支援経験のある訪問看護師などにインタビューを行い、今は災害支援ナースの活動報告をまとめ次の研究につなげているところです。

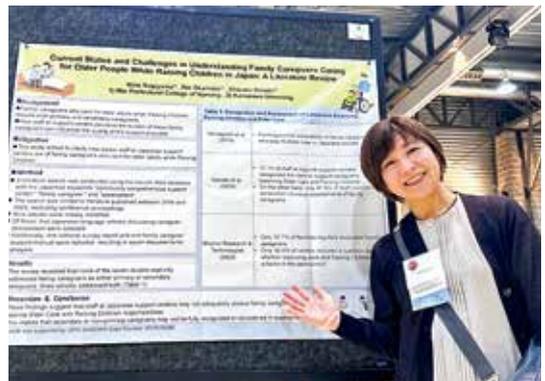
災害が多発する昨今、まずは、災害を「自分ごと」と捉え、安全で安心できる生活を維持できる力を一人ひとりに身につけてもらえる働きかけをしていきたいと考えています。

## 家族介護者が必要な支援を受け、 一人ひとりが自分らしく人生を歩める社会に

### 公衆衛生看護学

杉山 希美 講師

私の研究テーマは、育児と親の介護を同時に担う「ダブルケアラー」への支援に関するものです。日本人の女性ダブルケアラーを対象に、日々の暮らしやケアとの向き合い方に着目し、その実態を明らかにしてきました。日本では、家族がケアを担うことが文化的に期待されており、とりわけ女性に育児・介護・家事の負担が集中しやすい状況が指摘されています。研究からは、ダブルケアを担う女性たちが、親の介護を優先せざるを得ない中で、子どもに十分向き合えないことへの罪悪感を抱き、相談できずに悩みを一人で抱え込んでしまう姿が明らかになりました。また、高齢の親を日常的に支えていても、自分自身を「介護者」と認識していない方が多く、支援につながりにくい実態も示されました。こうした知見を踏まえ、現在は、地域の支援者が家族介護者をどのような視点で把握し、支援



The 7th International GNPHN Conference  
(カルガリー、2025年)でのポスター発表

へとつなげているのかを明らかにする実態調査に取り組んでいます。晩婚化や少子高齢化が進む日本において、ダブルケアの課題は今後さらに顕在化すると考えられます。同様の傾向は、アメリカ、イギリス、イタリア、中国などにもみられ、世界的に共通する課題といえます。家族介護者が孤立することなく、必要な支援を適切に受けながら、一人ひとりが自分らしく人生を歩める社会の実現に向けて、今後も研究を通して貢献していきたいと考えています。

# 三 看 大 みかんだいの1年



## — 令和7年度 大学の出来事 —

- ①入学式…学部生 103 名、大学院生 7 名が入学しました。
- ②1年生科目「三重を知ろうⅠ」…看護学の基盤を養うための初めての臨地実習です。ガイドの方に津市一身田寺内町を案内してもらいながら、歴史と暮らしについてお話を聴きました。
- ③就職説明会…三重県内 30 の医療機関・行政機関に参加いただきました。
- ④夢緑祭…本学のアットホームな学園祭です。
- ⑤オープンキャンパス…模擬授業や看護領域ブースなど、本学を体験していただく1日です。
- ⑥みかんの収穫…キャンパス内のみかんの木「みえ紀南1号」。毎年、学生も収穫に参加します。
- ⑦1年生・4年生科目「総合課題探求Ⅰ・Ⅱ」…臨床現場をはじめ現代社会における倫理的課題について、学年を超えたグループで探求した内容を発表しました。
- ⑧卒業研究発表会…4年生が卒業研究の成果を報告しました。

各行事等の詳細は、ホームページのTOPICSで紹介しています！





## 社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院



ただひたすらに その人のために  
それが済生会松阪総合病院の“癒しの看護”です。



済生会松阪総合病院は、「救療済生」の精神のもと、常に患者さん一人ひとりと向き合い、ただひたすらに“その人のために”医療を届けることを使命としています。急性期病院として高度で迅速な医療を担いながら、不妊治療から緩和ケアまで幅広い分野に対応し、患者さんの人生のさまざまな段階に寄り添い、地域に根差した医療を実践しています。

看護部では、患者さん一人ひとりの思いや背景を大切にし、心に届く「癒しの看護」をめざしています。急性期の現場でも、患者さんと向き合う姿勢を大切に、丁寧な看護に取り組んでいます。

教育面では、経年別教育プログラムを軸とした研修体制のもと、段階に応じた継続的な支援を行い、確かな実践力と豊かな人間性を備えた看護師の育成に力を注いでいます。また、三重県立看護大学の臨地実習に加え、教員からの出前講座や研究指導による教育を受けるとともに、共同研究に参加することで、教育・研究の充実を図っています。

新病院の開院を見据え、未来に向けた医療・看護の充実を図りながら、「その人のために何ができるか」を考え続ける看護に日々挑戦しています。変化の激しい時代にあっても、地域から信頼され、選ばれ続ける看護を実践できるよう、病院と看護部が一丸となって取り組んでいます。済生会松阪総合病院で、皆さんとともに学び、ともに“その人のための癒しの看護”を届けられる日を楽しみにしています。  
(看護部長 松井 美貴)

### 病院情報

社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院 (昭和12年1月 開設)

- 病床数：一般病床 380床、HCU (ハイケアユニット) 12床、SCU (脳卒中ケアユニット) 8床、NICU (新生児特定集中治療室) 3床、人工透析室 30床
- 診療科目：30科 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、小児科、外科、整形外科、新生児内科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、乳腺外科、消化器外科、形成外科、脳神経内科、リウマチ科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科医、救急科、リハビリテーション科、臨床検査科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科、緩和ケア内科
- 職員数：職員数 968人 (うち看護師 502人) 令和8年2月1日現在

### さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生支援のための基金への寄付のお願い～

平素よりあたたかいご支援をいただき、心より御礼申し上げます。  
本学は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て所得税の税額控除の対象となっているため、個人、法人それぞれにおいて税制上の優遇措置を受けることができます。税額控除適用にあたっては、本学発行の「寄附金領収証書」に基づき、所轄税務署に確定申告してください。  
なお、三重県ふるさと応援寄附金 (ふるさと納税) では、ワンストップ特例制度適用により、確定申告の手続きを要せず翌年度の住民税等税額が控除されます。  
今後も、一人でも多くの学生を支援するとともに、保健医療の現場で活躍する優秀な人材を養成し、本県の保健・医療・福祉の向上に貢献していきたいと存じますので、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### お申込み

※QRコードからお申込みの程よろしくお願いたします。

○寄付申出書

○三重県ふるさと応援寄附金 (ふるさと納税)

【ご寄付の状況】 総額 1,141万円 (令和8年1月末時点)

賜りましたご寄付は、経済的な理由により進学が困難な学生支援に活用いたします。



本学マスコットキャラクター  
「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大 (みかんたい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

## 公立大学法人 三重県立看護大学

〒514-0116  
三重県津市夢が丘1丁目1番地1  
TEL 059-233-5600(代)  
FAX 059-233-5666  
<https://www.mcn.ac.jp/>



本学は、「大学基準協会」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。

広告

# 看護師募集中

地域の皆様を大切に、  
行政、医療機関と共働しながら、  
信頼される病院となることを  
目指します。



県立志摩病院  
ホームページ

県立志摩病院  
Prefectural Shima Hospital



〒517-0595 三重県志摩市阿児町鶴方1257番地  
TEL:0599-43-0501 FAX:0599-43-2507  
HP :https://kenritsushima.jadecom.or.jp

広告

ご応募はこちらから

## 三重県立こころの医療センター インターンシップ参加者募集

**対象** 看護系大学生、看護専門学生（学年不問）  
**日時** 9:00~16:00（希望日に合わせます）  
**場所** 三重県津市城山1-12-1  
**内容** ・病棟や外来の見学・看護体験 ・先輩看護師との交流・座談会  
・教育体制・キャリア支援の紹介

**お問い合わせ** 看護部 松永  
059-235-2125(代表)

広告

## 「つなぐ看護」で多職種と連携し支え合う

三重県立看護大学卒業生



24期生



21期生



23期生

インターンシップ<sup>®</sup>随時受付中

看護師募集

松阪市民病院

〒515-8544 三重県松阪市殿町 1550番地

TEL.0598-23-1515

mail:mch-kirari@city-hosp.matsusaka.mie.jp

※当院は令和8年4月に、「社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部三重県済生会」を指定管理者として、「公設民営」による運営に移行します。



松阪市民病院  
看護部トップページ



松阪市民病院  
看護部採用ページ

広告

人と関わるのが好きな方へ

見学は随時受け付けています  
お気軽にご連絡ください

本日の看護が  
学べる!!

ヒナガの看護が  
上がる

人との  
成長できる

寄り添って  
看護ができる

心掛ける



HINAGA General Center for Mental Care

総合心療センター ひなが

〒510-8575 三重県四日市市日永5039番地 TEL 059-345-2356 FAX 059-346-4643 E-mail: kangobu@hinaga.or.jp

看護部サイトはこちら

